

巻頭言

第65回日本放射線技術学会総会 学術大会を振り返って

日本放射線技術学会 第65回学術大会 大会長

小水 満



小水 満 先生

1. はじめに

例年JRC開催は、横浜港沿岸をピンクに染める満開の桜が眺められる4月上旬に行われていました。JRC2009では、好天に恵まれて新緑も間近に浜風を感じながら4月16日(木)から19日(日)の4日間にパシフィコ横浜で開催いたしました。昨年までは3日間開催でしたが、近年の参加人数や研究発表演題数の増加傾向に伴い、全プログラムを網羅して実施できる会場の確保が困難となってきました。そこで今回は、JRSのみ会期を長くする変則的な開催運営や国立大ホールを使用することなどで会場の確保を行いました。また、機器展示では、ゆとりある機器の展示スペースの確保とゆとりある展示閲覧ができるように展示ホールを全てITEM展示会場としました。

第65回日本放射線技術学会総会学術大会のプログラムでは、一般研究発表801演題、総会、特別講演、大会長講演、瀬木賞講演、RPT誌優秀論文土井賞受賞講演：3、宿題報告：2、シンポジウム：3、教育講演：9、フレッシュャーズセミナー：12、技術活用セミナー：14、STセミナー：3、教育講座、ワークショップ、海外学術交流講演、フォーラム：4、分科会：7、CADセミナーなどを3日間で開催いたしました。参加登録者数は、4,260名(正会員3,753名、学生会員：507名)となり、多くの会員に参加して頂きました。



2. 大会テーマについて

今大会は、大会テーマ「輝く放射線医療 今そして未来」-人と技術のハーモニー-を強く意識し、次のような観点からプログラムを企画しました。

メインタイトル「輝く放射線医療 今そして未来」は、放射線医療を「明るく」「笑う」をモットーとして時勢を前向きに捉え、現在の放射線診療技術が輝く未来に拓かれることを期待したものです。サブタイトル-人と技術のハーモニー-は、昨今の高性能で高精度の機器を用いて高度な放射線医療を提供するシステムにおいて、医療従事者は、機械に使われるのではなく医療技術者として機械を使いこなすことが、臨床と技術の調和を保ち安全で安心できる良質な医療を患者に提供できるとの考えからです。

3. 演題と会場について

一般研究発表は801題で第63回大会の803題に次ぐ演題数がありました。発表形式と発表時間については、口述発表：382題、発表時間：7分、討論時間3分、サイボス発表：419題、発表時間：3分、討論時間2分としました。学会発表では、研究内容が

主張できる最低の発表時間を確保したいものです。演題区分の特徴として、核医学分野、放射線治療分野の演題増加が目立っていました。

演題群別参加人数調査から、収容人数を超過した演題群は、189演題群のうち26の約14%となり、ほとんどが収容人数120席以下の会場でした。分野別では、CT検査:8、画像工学:6、医療情報:3、X線検査:3、MR検査:2、放射線管理:2、放射線治療:2でした。特に、放射線治療は432名収容の会場でも約130%の収容人数となり参加者が溢れたため、隣接する会場を急遽サテライト会場として運用して映像と音声を通して対応しました。今後、質問ができる設備を有するサテライト会場の設置が収容人数の少ない会場使用のための打開策の一つと考えます。

4. 合同企画について

女優・大空真弓さんの合同特別企画トークショー「多重がん」撃退中！～がんなんてなによ～では、ホスト役の川島博子先生と小山智美さんが大空真弓さんをリードして、くよくよせず天性の明るさで人生を乗り切る様子のトークを上手く引き出されていました。大空真弓さんのお話は、我々に明るく前向きな医療を心がけなければならないことを教えているものではなかったでしょうか。また、医師であり作家の海堂 尊先生の合同特別講演「Aiは医療、そして社会制度の基盤になる」では、Aiを放射線診療として積極的に捉えることが未来の放射線医療に繋がるものであると強調された内容は、今後の放射線医療体制の課題の一つであると考えます。



合同シンポジウム1～4では、「輝く放射線医療 今そして未来 人と技術のハーモニー」を統一テーマとして、診断、IVR、治療の分野別に人と技術がハーモニーを奏でるために必要な医療技術を医師、技師、看護師、メーカなどの立場から発表して頂きました。ここでは、医療現場でのコミュニケーションやチーム医療の重要性が再確認されたのではないのでしょうか。合同シンポジウム2「社会に貢献する放射線技術とその課題」では、放射線診療における医学物理の役割と必要性を取り上げました。この課題に、放射線科医師、診療放射線技師、医学物理士それぞれの立場からの発表に留まり、各職種間でコンセンサスが得られるまとめができなかったことが寧ろ課題として残り、今後の継続的な議論が望まれるものです。ハーモニーセミナー1、2では、技術革新の激しいCTとMRIを取り上げ、欧州におけるCTとMRIの現状の技術をそれぞれ、Patrik Rogalla先生と高原太郎先生に講演して頂きました。技術学会での国際化に向けた企画として、今後このような講演が学会企画として必要なことです。

5. JSRT企画について

特別講演「心筋再生治療の現状と展望」は、ゴッドハンドと言われている大阪大学病院未来医療センター 澤 芳樹先生によるもので、重症臓器不全治療に不可欠である再生型治療法の展開に関するお話は、より高い心臓治療効果の探求のために、輝く未来を拓く「人と技術」を目指すもので大変興味深いものでした。シンポジウム1「新しいユビキタスへの道」では、一画像品質保証の立場からと題し、整形外科医師、メーカ、ユーザ、エンジニアそれぞれの立場から、日常の臨床現場で必要な画像の品質保証のために考えなければならない内容について議論しました。日常診療ではユビキタ斯的に行動できるシステムを作ることが大切であることを再認識できたと思います。ワークショップでは、スーパーテクノロジスト認定制度が技術学会員にはよく理解できないとの意見が多い中、「スーパーテクノロジスト(ST)と専門技師」として、基調講演を土井邦雄名誉顧問に、小寺吉衛学会長と大西英雄ST認定制度委員長には学会の目指す専門技師について講演頂きました。STと認定制度を将来的にどう具体化するかの議論が始まったところであり、技術学会事業の今後に注目するところです。

6. STセミナーについて

学術大会での新しい形式の教育講演を「STセミナー」として企画しました。テーマを「診療放射線技師のための画像診断学入門」- 標本(像)を五感で理解する - として、STセミナー1(上腹部)では、京都医療センター伊藤 剛先生の2時間講演(210名)、STセミナー2(呼吸器疾患)では、福井大学伊藤春海先生の3時間の長い講演(305名)にも関わらず、用意したテキストが不足するほどに多数の受講者がありました。両伊藤先生の診療放射線技師への熱い画像診断教育に対して応えられるように会員の一層の努力を期待するものです。

7. 伊藤研究室展示について

STセミナー3では、STセミナー1, 2の講義を更に五感で理解するために伊藤春海研究室展示を行いました。研究室展示では、伸展固定された実物肺標本を手で触って理解し、肺標本切片を実体顕微鏡で観察して肺実質の緻密な構造を病理画像やX線画像と対比して理解することやコンピュータの3次元表示によるCT画像診断の体験が行われました。また、上腹部領域では、白と黒で形作られる放射線画像とそのマクロ病理(標本)を観察することで、病態の実体と放射線画像を深く関連づけることをパソコンによる画像診断プロセスとして実体験しました。4月18日~19日(午前)の短期間の展示でしたが、見学者にとって貴重な体験学習ができたと思います。今後の検査に望む態度が大きく変わるほどの効果を期待するものです。



8. 市民公開講座(Kid'sセミナー)について

約70名の小学生高学年に「魔法の光! よくわかる放射線」として、①放射線ってなんだろう ②霧箱の実験で放射線をみてみよう ③「はかるくん」を使って放射線を測ろう ④ワークステーションで体の中

をのぞいてみよう などの体験から放射線を理解する場をつくりました。セミナーでは、参加された子供の安全性に重点を置き、多くの会員やNPO法人放射線教育フォーラム関係者などに協力を頂き万全の体制で対応しました。きめ細かい指導体制は子供たちが放射線を理解するに当って大変好評でした。また、「3D画像で体の中をのぞいてみよう」では、サーバ4台とクライアント25台のネットワーク環境を設置して頂いた関係メーカに深く感謝するものです。



9. 2009国際医用画像総合展(ITEM2009)について

ITEM2009は、昨年までとは異なり展示ホールA, B, C, Dを全て使用して(総展示面積8,781m²)ゆとりある展示と見学ができるようにしました。コーヒードリンクサービス付きの休憩コーナーを2箇所設置して頂いたことは参加者にとって嬉しいものでした。昨今の世界的な不況の中、140社の出展が得られたこと大変ありがたいことでした。一方、小小間展示している企業が機器紹介をするJIRA企画コーナーの設置など、きめ細かい画像総合展にも関わらず19,074名の入場者に留まったことは大変残念でした。このことは、学会のプログラムとも関係すると思われます。JRCとしては各学会との綿密な連携による運営が必要でないでしょうか。



10. 最後に

STセミナー，Kid'sセミナーは，準備から実施に至るまで，多くの方々の積極的な努力により手作りの準備と運営となりました。STセミナーでは，田中雅人氏，船橋正夫氏，越智寿子氏ほか多くの方々に，Kid'sセミナーでは，近畿部会，東北大学の技術学会員，NPO放射線教育フォーラム，横浜市立大学の先生方などの多大なご協力のお陰で成し遂げられましたこと，及び大会の準備から運営まで，多大なるご支援とご鞭撻を頂きましたJSRT，JRC，JRS，JSMP関係諸氏には，実行委員一同深く感謝いたします。

最後になりましたが，実行委員会発足以来，第65回日本放射線技術学会総会学術大会の開催のために準備頂きました 錦 成郎実行委員長(天理よろづ相談所病院)，大野和子(京都医療科学大学)，梁川 功(東北大学病院)，川原雅昭(大阪大学病院)各委員には，大会を成功裡に終えられたことに心より感謝いたします。

